

## 1 単元について

対 象 学 年	小学校 第6学年
学 習 指 導 要 領	第6学年の内容 A 生物とその環境(2) ア
単 元 名	「植物のからだのはたらき」(全8時間)
単元(題材)目標	<p>植物がでんぷんをつくりだしていることに興味・関心をもち、自ら植物の葉の働きを調べようとする。 (自然事象への関心・意欲・態度)</p> <p>日光とでんぷんのでき方との関係を調べ、植物と体のつくりとの働きを多面的に考えることができる。 (科学的な思考)</p> <p>植物を観察し、ヨウ素液などを適切に使って日光とでんぷんのでき方の比較対照実験を行い、記録することができる。 (観察・実験の技能・表現)</p> <p>植物の葉に日光が当たるとでんぷんができることを理解している。 (自然事象についての知識・理解)</p>
配 慮 事 項	<p>基礎的・基本的な内容の確実な定着の工夫          児童の実態を大切にした単元指導計画の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 種子に蓄えられたでんぷんについて事前調査(資料1)を行ったところ、実に多くの児童が「でんぷんは土中から取り入れている」という素朴概念を形成していることが分かった(資料2)。そこで、単元の導入段階で自分なりの仮説を立て、でんぷんはどこからくるのか、どこで作られるのかを解決する学習機会を設定する。この学習経験を生かして、葉ででんぷんがつくられることと日光が当たることとの関係付けを調べるために、条件を制御して実験を行う学習機会を位置付ける。このような2段階構成を仕組むことで、仮説をもとに実験を企画し実行する力を高めたいと考えた。</li> </ul> <p>既習事項を網羅する掲示物の作成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第5学年において、インゲンマメの発芽や成長に関して必要な条件を学習した。種子には、発芽のための養分としてでんぷんが含まれていること、さらに、「花から実へ」の単元では、花のつくり、受粉、受精を通して種子ができることを学んでいる。第3学年においては、根・茎・葉による体のつくりを学んでいる。これらの既習事項が、児童一人一人に共通の基礎知識として確実におさえられれば、本単元のでんぷんにかかわる学習に深まりが出てくると考えた。そこで、既習の知識が共有できるように、インゲンマメの種植え時や、インゲンマメの成長に応じて繰り返し復習をし、「インゲンマメのひみつ」と称した掲示物(資料3)として残してきた。</li> </ul> <p>児童の見方や考え方に応じた弾力的な指導体制(資料4)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ でんぷんが作られるという見方や考え方(以下製造説) でんぷんを取り入れるという見方や考え方(以下吸収説)の2つの仮説に対して、</li> </ul>

	二人の教師がそれぞれの説に分かれたり、日光を制御するための方法（覆い、アルミホイル、日かげなど）に応じて、児童一人一人に個別の支援を行うようにする。このような、指導体制が児童の主体的な学びをサポートする理科学習における少人数指導の一実践ともとらえていきたい。
参 考 資 料	資料1：単元の学習にかかわる事前調査 資料2：事前調査の結果 資料3：既習事項を網羅する掲示物「インゲンマメのひみつ」 資料4：少人数指導にかかわる児童の意識調査とその結果

## 2 単元の評価規準

	ア 自然事象への関心・意欲・態度	イ 科学的な思考	ウ 観察・実験の技能・表現	エ 自然事象についての知識・理解
内容のごまとのま評価規準	生物の体のつくりと働き及び生物と環境との関係を意欲的に追究し、生命のたくみさやすばらしさを感じとり、生命を尊重しようとする。	生物の体のつくりと働き及び生物と環境との関係に問題を見だし、多面的に追究し、相互関係や規則性をとらえ、問題を解決する。	植物や動物を育てたり、情報を収集したりし観察や実験を行い、その過程や結果を的確に表す。	生物は互いに類似した体のつくりと働きをもち環境とかかわって生きていることなどを理解している。
単元の評価規準	植物がでんぷんをつくりだしていることに興味・関心をもち、自ら植物の葉の働きを調べようとする。	日光とでんぷんのでき方との関係を調べ、植物と体のつくりとの働きを多面的に考えることができる。	植物を観察し、ヨウ素液などを適切に使って日光とでんぷんのでき方の比較対照実験を行い、記録することができる。	植物の葉に日光が当たるとでんぷんができることを理解している。
単位時間における具体	インゲンマメの種子のでんぷんはどこでどのように作られたのかに興味・関心をもち、意欲的に調べようとする。 光の当たり方の違いによって植物の成長に差が生まれ	既習事項を生かして、インゲンマメの種子のでんぷんがどこからきたのかを推論することができる。 身の回りの植物は日光が当たるとどれも葉のでんぷんをつくるのではな	インゲンマメの種子のでんぷんがどこからきたのかを調べる方法を工夫して、実験の計画を立案することができる。 植物の葉に当たる日光の量と葉にできるでんぷんの関	土中にでんぷんは存在せず、インゲンマメの葉にでんぷんが多く存在することを理解している。 実験の結果や話し合いから、植物の葉に日光が当たるとでんぷんができ

の 評 価 規 準	ることに興味・関 心をもち、光と植 物の成長との関係 を進んで調べよう とする。	いかと考えること ができる。 日光とでんぷんの でき方との関係に ついて調べたこと から、植物の体の つくりと働きにつ いて考えることが できる。	係を調べるために 覆いをして光が当 たらないようにす る葉と、光が十分 に当たる葉を準備 し、比較対照実験 を行い、その違い をノートに的確に 記録することがで きる。 光が当たらなかつ た葉と十分に当た った葉を、アルコ ールで処理したり たたきぞめ法やす りつぶし法で実験 を行ったりして、 ヨウ素液を適切に 使いでんぷんの有 無を調べることが できる。	ることを理解して いる。 植物体は動物と異 なり、自分ででん ぷんを作り出して いることを理解し ている。
-----------------------	--	---	---	---

### 3 指導と評価の計画（全8時間）

時	ねらい	学 習 活 動	評価規準	評価方法	指導・援助
1 2	どこででん ぷんが作ら れているか 仮説を立て 実験を行い 葉にヨウ素 反応が見ら れることに 気づき、葉 にでんぷん が多く存在 することが 分かる。	<p>実際にできたインゲンマメの種子の中にはでんぷんが含まれていることを調べる演示を見る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>できたインゲンマメの種子のでんぷんはどこかでつくられているのだろうか。どこかで取り入れているのだろうか。</p> </div> <p>予想を立て、実験方法を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・製造説 葉でつくるから、演示実験のようにろ紙に葉をはさんで、漂白剤を使って調べる。</li> <li>・吸収説 土中から取り入れるので、5年生の「もののとけ方」の時の学習のように、泥水をろ過してそのろ液にヨウ素液をたらして調べる。</li> </ul>	<p>&lt;ア - &gt; インゲンマメの種子のでんぷんはどこでどのように作られたのかに興味・関心をもち、意欲的に調べようとする。</p> <p>&lt;イ - &gt; 既習事項を生かして、インゲンマメの種子のでんぷんがどこからきたのかを推</p>	<p>行動観察</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教師の演示を見て、でんぷんがどこでどのようにつくられたかを深く考えているか。</li> </ul> <p>学習ノート</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・既習事項を生かした推論が予想として記述できているか</li> </ul>	<p>3年生、5年生での既習事項をインゲンマメの成長に合わせて掲示物に残しておく。</p> <p>児童の多様な見方や考え方を、肯定的に受け入れ、全体に位置付けるように配慮する。</p> <p>製造説、吸収説を2名の教師で</p>

		<p>結果をまとめ考察する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・土の中にはでんぷんがなく、葉に多くのでんぷんがあることが分かった。</li> </ul>	<p>論することができる。</p> <p>&lt;ウ - &gt; インゲンマメの種子のでんぷんがどこからきたのかを調べる方法を工夫して、実験の計画を立案することができる。</p> <p>&lt;エ - &gt; 土中ででんぷんは存在せず、インゲンマメの葉にでんぷんが多く存在することを理解している。</p>	<p>学習ノート</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・予想交流での仲間の考えをもとにしながら、自分の実験計画が立案できたか。</li> </ul> <p>学習ノート</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・双方の説をまとめた記述ができているか。</li> </ul>	<p>それぞれ支援する。個々の児童の実験結果に対する見通しを把握し、実験方法を児童とともに考えるようにする。</p> <p>それぞれの説に寄り添いながら支援をするとともに、自分と異なる説にも目を向けることができるように助言する。</p>
3 4	<p>でんぷんが つくられる には日光が 必要ではな いかと考え 実験を企画 し、日光の 当たった葉 にヨウ素反 応が見られ たことから インゲンマ メの葉に日 光が当た ると、でん ぷんをつ くることが 分かる。</p>	<p>日光に当たったインゲンマメと、数日前から日光に当てないで育てたインゲンマメを観察する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>インゲンマメの葉ででんぷんをつくるためには、日光が必要だろうか</p> </div> <p>予想をし、実験方法を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アルミホイルで包んで日光を当てないようにして実験をする。</li> <li>・ほぼ同じくらい成長したインゲンマメ2株を使って一方に箱をかぶせて日光を当てないようにして実験をする。</li> </ul>	<p>&lt;ア - &gt; 光の当たり方の違いによって植物の成長に差が生まれることに興味</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・関心もち、光と植物の成長との関係をすすんで調べようとする。</li> </ul> <p>&lt;ウ - &gt; 植物の葉に当たる日光の量と葉にできるでんぷんの関係</p>	<p>発言</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・植物の成長と日光を関係付けて調べようとしているか。</li> </ul> <p>行動観察</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・制御すべき要因が日光であることを意識して実験の準備ができているか。</li> </ul> <p>学習ノート</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・比較対照実験の有効性</li> </ul>	<p>5年生での学習と、前時の葉にでんぷんが多く存在したという事実を関係付けて発言する児童を価値付ける。</p> <p>制御すべき要因は日光であることを常に確認しながら、児童の実験準備を見守る。</p> <p>2名の教師は、実験方法に応じて支援を行う。</p>

		<p>結果を交流し、まとめを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日光の当たった葉はでんぷんができていて、日光に当てない葉はでんぷんができていない。</li> <li>・インゲンマメがでんぷんをつくるには日光が必要であることが分かった。</li> </ul>	<p>を調べるために、覆いをして光が当たらないようにする葉と、光が十分に当たる葉を準備し、比較対照実験を行い、その違いをノートに的確に記録することができる。</p>	<p>を意識して学習の過程が記録されているか。</p>	<p>実験結果からはっきりしたことをつぶやいている児童を大いに認めるとともに全体に広く位置付け、仲間との交流を促すようにする。</p>
5 6	<p>インゲンマメと同じようにどの植物も日光が当たった葉にヨウ素反応が見られることに気付き、インゲンマメ以外の植物も日光が当たると、でんぷんを作ることが分かる。</p>	<p>インゲンマメ以外の植物の葉を見る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>インゲンマメ以外の植物も、日光が当たるとでんぷんを作っているのだろうか</p> </div> <p>予想を立て、実験方法を選択し実験を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の調べたい植物を採集して調べる</li> <li>・自分の調べたい方法(たたき染め、アルコール脱色法、すりつぶし法)を選択して実験する。</li> </ul> <p>結果を交流し、まとめを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・インゲンマメと同じように、どの植物も日光に当たるとでんぷんをつくっている。</li> </ul>	<p>&lt;イ - &gt;</p> <p>身の回りの植物は、日光が当たるとどれも葉のでんぷんをつくるのではないかと考えることができる</p> <p>&lt;ウ - &gt;</p> <p>光が当たらなかった葉と十分に当たった葉をアルコールで処理したり、たたきぞめ法やすりつぶし法で実験を行ったりして、ヨウ素液を適切に使いでんぷんの有無を調べることができる。</p> <p>&lt;エ - &gt;</p>	<p>学習ノート</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・インゲンマメの実験結果をもとにして、植物全般に見方や考え方を広げようとしているか</li> </ul> <p>行動観察</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一つの方法で数種類の植物を、または、たくさんの方法で数種類の植物をヨウ素液を適切に使ってでんぷんの有無を調べているか。</li> </ul>	<p>前時の実験結果を、植物の成長や働きと関連付けて考えている児童の発言を価値付ける。</p> <p>科学的な見方や考え方を高めるために、客観性・再現性・実証性を高めようとした実験の姿を大いに認める。さらに、これらの姿がより確かな理解、実感を伴う理解につながるために重要であることを本時のまとめの段</p>

			実験の結果や話し合いから、植物の葉に日光が当たるとでんぷんができることを理解している。	学習ノート ・日光とでんぷんのでき方の関係について、植物の共通点としてまとめてあるか	階で全体に広く紹介する。
7	日光によく当たった葉を絞り、沈殿物にヨウ素液を滴下すると反応することからでんぷんが取り出せたことが分かる。	日光がよく当たった葉を見る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">葉にできたでんぷんを取り出してみよう</div> 実験方法の説明を聞く。 実験を行う。 ・葉をたくさん取ってきてしぼれば出てくると思う。 ・日光によく当たった葉を使う方がいい。  実験の感想を交流しあう。 ・やっぱり、日光によく当たった葉に、たくさんでんぷんがあった。	<ウ - > 光が当たらなかった葉と十分に当たった葉をアルコールで処理したり、たたきぞめ法やすりつぶし法で実験を行ったりして、ヨウ素液を適切に使いでんぷんの有無を調べることができる。	行動観察 ・日光とでんぷんのでき方を意識しながら活動に取り組み慎重にでんぷんを取り出そうとしているか。	日光がたくさん当たった葉や、やわらかい葉を用意した児童にその理由を全体に発表することを促す。  市販のでんぷんを自由に見たり触れたりできるようにすることで、取り出したものと比較できるようにする。
8	インゲンマメやその他の植物に関して、でんぷん生成と日光の関係を絵や図を使って総合的にまとめることができる。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">植物と日光の関係をまとめてみよう</div> 今まで学習をふりかえり、絵や図を使ってまとめる。  評価テストを行う。	<イ - > 日光とでんぷんのでき方との関係について調べたことから、植物の体のつくりと働きについて考えることができる。 <エ - > 植物体は動物と異なり自分ででん	まとめ新聞 ・日光とでんぷんのでき方の関係を植物の体のつくりと働きに関係付けて記述できているか  まとめ新聞 ・植物と動物との違いを	これまでの学習の過程を掲示物に残しておき、全員で簡単にふりかえりを行いながら、植物の体のつくりと働きに関してや、動物と植物との違いに目が向くような教師の補充・発展的な説明を加える。 補充 葉互い違い、蔓のあ

			ぶんを作り 出している ことを理解 している。	意識した記 述ができて いるか。	る植物など の紹介 発展 食物連鎖 に関する話
--	--	--	----------------------------------	------------------------	----------------------------------

#### 4 単位時間の授業展開例

##### (1) 本時のねらい

- どこかででんぶんが作られているか仮説を立て、実験を行い、葉にヨウ素反応が見られることに気づき、葉にでんぶんが多く存在することが分かる。

##### (2) 本時の位置

1・2 / 8時

##### (3) 展開案

過程	学 習 活 動	評価について	指導・援助
	<p>「インゲンマメのひみつ」の掲示をみる。            事象提示をみる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>花が終わると実ができてきたね。</li> <li>種の中にはでんぶんがあったよね。</li> </ul> <p>課題意識をもつ</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>できたインゲンマメの種子の              でんぶんはどこかで作られているのだろうか。どこかで              取り入れているのだろうか。</p> </div> <p>仮説を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>でんぶんは土の中から取り入れていると思う。わけは、根が養分を吸うと思うから。だから、根を切ってヨウ素液をかけると、根が青紫になるはずだ。</li> <li>でんぶんは、土の中から取り入れていると思う。わけは、根が水を吸っているから。だから、でんぶん汁をご飯から作ったように、回りの土をしぼってろ過した後にヨウ素液をかけるとでんぶんがあることが分かるはずだ。</li> <li>葉で作っていると思う。わけ</li> </ul>	<p>&lt;ア - &gt;            インゲンマメの種子のでんぶんはどこでどのように作られたのかに興味・関心をもち調べようとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教師の演示を見て、でんぶんがどこでどのように作られたかを深く考えている。(行動観察)</li> </ul> <p>&lt;イ - &gt;            既習事項を生かして、インゲンマメの種子のでんぶんがどこからきたのかを推論することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>既習事項を生かした推論が予想として記述できている。(学習ノート)</li> </ul> <p>&lt;ウ - &gt;            インゲンマメの種子のでんぶんがどこからきたのかを調べる方法を工夫し</p>	<p>3年生、5年生での既習事項を、一枚の掲示物にまとめておく。</p> <p>二人の教師で、具体的に実験方法まで記述できている児童を見取り、交流段階で位置付けることができるようにする。</p>

<p>は、本で読んだことがあるから。だから、葉をろ紙にはさんで強く押して漂白剤を使って脱色して調べると、葉にでんぷんがあることが分かるはずだ。</p> <p>仮説（予想）別に分かれ、追究方法や起こり得る結果に対して見通しをもつ。</p> <p>&lt;吸収説&gt;：T 1</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・根を切るといいね。</li> <li>・根の回りの土についても調べるといいね。</li> <li>・茎も通り道のはずだから調べてみたいな。</li> <li>・カッターがいるね。</li> <li>・ガーゼにくるんだ土を水の中でしぼってヨウ素液を使って調べよう。</li> <li>・計画をノートに記述する。</li> <li>・実験を開始する。</li> </ul> <p>&lt;製造説&gt;：T 2</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・葉は緑が濃いから、ヨウ素液をかけるだけでは分からないね。</li> <li>・緑がなくなるといいな。</li> <li>・漂白剤を使うといいよ。</li> <li>・ろ紙を使って、たたくといいね。</li> <li>・茎やサヤ、根も調べていこう。</li> <li>・計画をノートに記述する。</li> <li>・実験を開始する。</li> </ul>	<p>て、実験の計画を立案することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・予想交流での仲間の考えをもとにしながら、自分の実験計画が立案できている。（学習ノート）</li> </ul> <p>T 1：吸収説を担当し、既習の実験方法を生かして、追究方法を具体的に見通せるように支援する。</p> <p>T 2：製造説を担当し、事象提示での実験方法をアドバイスしながらたたきぞめ法について見通せるように支援する。どちらの説も起こり得る結果の見通しをノートに記述するよう指導する。</p>
<p>計画に基づき実験を行う。</p> <p>&lt;吸収説&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・土の中にはでんぷんはないみたいだ。</li> <li>・茎は、少しだけ青紫に変化するね。</li> </ul> <p>&lt;製造説&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・しっかり色が変わるよ。やっぱり葉ででんぷんを作っているようだ。</li> <li>・日光の当たる緑の葉しかだめなのか知りたいな。</li> </ul> <p>全体で交流する。</p>	<p>仮説別グループで、実験計画に基づき実験を行う。T 1、T 2は、前時の担当同様に支援にあたる。</p> <p>T 1：結果からはっきりしたことをまとめるとともに、製造説に目が向くようにはたらきかける。</p> <p>T 2：日光との関係付けに目が向くよう支援し、結果の発表</p> <p>&lt;エ - &gt;</p>

<ul style="list-style-type: none"> <li>・土の中には、でんぷんはなかった。</li> <li>・葉にでんぷんがたくさんあることが分かった。</li> </ul> <p>まとめる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・このことから、でんぷんは土の中から取り入れられているのではなく、葉ででんぷんを作っていることが分かった。</li> </ul>	<p>土中にでんぷんは存在せず、インゲンマメの葉にでんぷんが多く存在していることを理解している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・双方の説をまとめた記述ができています。(学習ノート)</li> </ul>	<p>時に次時の問題づくりにつなげるようにする。</p> <p>結論として言えることを全体で明確にする。</p>
---	--	--

## 5 評価の実際と個に応じた指導事例

### (1) 本時重点的に取り上げた評価規準

#### 評価規準 ウー

インゲンマメの種子のでんぷんがどこからきたのかを調べる方法を工夫して、実験の計画を立案することができる。

### (2) 評価の実際

自分の予想をもとに、インゲンマメの種子のでんぷんは種の実験方法を考え、ノートに追究方法を使用する器具や手順も明確に記述でき、教師が実験の企画の方法を問いかけた時に、実験道具を示しながら具体的に説明することができる姿を、「おおむね満足できる状況」と判断した。

さらに、起こり得る結果の見通しまでを記述して実験を企画する姿を「十分に満足できる状況」にあると判断した。

### (3) 個に応じた指導の実際

でんぷんがどこからきたのか推論することができず予想をもてない児童への指導

事象提示において、インゲンマメの種子の中にはでんぷんが存在するという事実を確認したものの、そのでんぷんがどこからきたのか推論することができず、予想をもつことができないでいる姿を「努力を要する状況」にあると判断した。

そこで、自分の予想をもてるように、事象提示を再度行いながら、仮説の交流時に仲間が述べた予想を丁寧に補足説明をした。これにより、自分の予想を明確にすることができた。

予想をもったが、検証のための追究方法を考えることができない児童への指導

インゲンマメの種子の中のでんぷんが、葉で作られているまたは、土中から吸収されていると予想をもつことができたが、自分の予想を検証するためには、どのような追究方法が有効であるのかを考えることができずにいる姿を「努力を要する状況」にあると判断した。

そこで、それぞれの説に応じて、既習事項を思い出したり、仮説の交流時に仲間が述べた追究方法を想起したりすることで方法を考えることができるようにした。

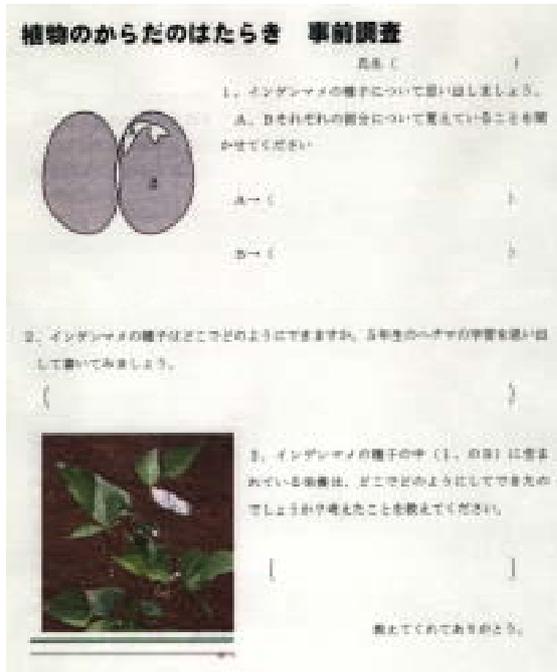
吸収説の児童に対しては、直接ヨウ素液を使用しても結果が得られないことから、5年生での学習を生かして、泥水を濾過して調べることを考えつくように方向づけを行った。

製造説の児童に対しては、葉に、直接ヨウ素液を使用しても結果が得られないことから、事象

提示におけるたたき染め法や漂白剤の利用を思い出し、実験方法を想起できるようにアドバイスをを行った。

いずれの説においても、「どんな結果が得られると思う？」と声をかけ、実験のまとめにかかわって見通しをもつことができるように配慮した。

## 6 参考資料



でんぷんについての事前調査(資料1)

「インゲンマメのひみつ」(資料3)

事前調査の結果(調査人数81名)

1A	1B	2	3 学習以前の位置の考えや考え方	
種・葉・葉になる部分と記述	発芽のための成分(でんぷん)	花・空胞・受精・葉・種子	どこかで作られるという考え 樹皮(皮)が芽胞	どこから取り入れるという考え 根皮(皮)が芽胞
正答率 9.6%	正答率 1.00%	正答率 4.1%	芽で→4% 皮から→4% 葉で→7% 花で→7%	芽で→4% 根から→2.6% 種皮(皮)から→4%

事前調査の結果(資料2)

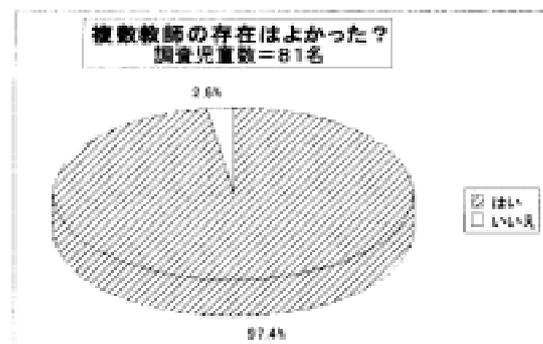


理科の学習をふりかえってください！

氏名( )

①理科の授業の時は、いつも先生が二人いますが、先生が二人いていいな！よかったな！と思ったことはありますか？  
どちらかに○をつけてください。  
はい・いいえ

②①ではい・いいえと答えた人に聞きます。それは、どんな時にそう思いましたか？思い出して、ぜひ教えてください。  
( )



「はい」と答えた児童の理由をみると、「困った時に相談ができるから」「ヒントがもらえるから」といった内容が多かった。この記述内容から児童が精神的なゆとりや安心感をもって授業に臨むことができたというプラスのとらえ方と、問題解決の過程で生じる幾多の克服すべき困難が、複数の教師のによる過剰な手助けとなっていたというマイナスのとらえ方の両面が考えられる。

このマイナス面を補うには、単元や一単位時間のねらいを明確にすること、互いの教師が、支援の方向性や有効性について共通理解を図ることが何よりも重要となる。この点については、今後の課題としたい。

今回、「はい」と答えた児童の中に、少数ではあるが「実験が安全にできる」「いろいろな方法で調べることができる」「追究の過程に密着し寄り添ってくれる」といった記述内容もみられた。これは、本校の願う少人数指導に近づいた姿であり、今後一人でも多くの児童がこうした思いを抱くことができるよう少人数指導に積極的に取り組んでいきたい。

最後に、「いいえ」と答えた児童の理由をみると、「二人いても別にいいけど、いてもいなくてもそんなに変わりはない」という記述であった。この児童は、複数教師の存在を肯定的に受け止めており、こうした雰囲気となることも大切だと考える。

#### 少人数指導にかかわる子どもの意識調査とその結果（資料4）